

**製品名: BIN1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe01727**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.39mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW: 65 kDa; Observed MW: 45-80 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BIN1
別名	BIN1; AMPHL; Myc box-dependent-interacting protein 1; Amphiphysin II; Amphiphysin-like protein; Box-dependent myc-interacting protein 1; Bridging integrator 1
遺伝子 ID	274
SwissProt ID	O00499
免疫原	ヒト BIN1 の組み換えタンパク質

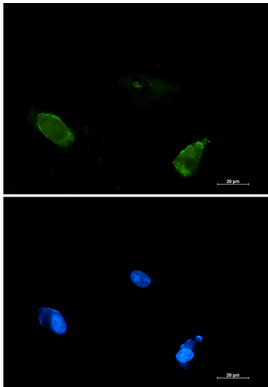
**背景**

この遺伝子は、核細胞質アダプタータンパク質の複数のアイソフォームをコードしており、そのうちの1つは、腫瘍抑制因子としての特徴を持つ MYC 相互作用タンパク質として最初に同定されました。中枢神経系で発現するアイソフォームは、シナプス小胞エンドサイトーシスに関与し、ダイナミン、シナプトジャニン、エンドフィリン、クラスリンと相互作用する可能性があります。筋肉で発現するアイソフォームと普遍的に発現するアイソフォームは、細胞質と核に局在し、カスパーゼ非依存性のアポトーシス過程を活性化します。マウスを用いた研究では、この遺伝子が心筋の発達に重要な役割を果たすことが示唆されています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする 10 個の転写バリエーションが生成されます。腫瘍細胞株で発現する異常なスプライスバリエーションも報告されています。

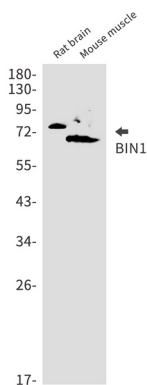
## 研究分野

細胞生物学

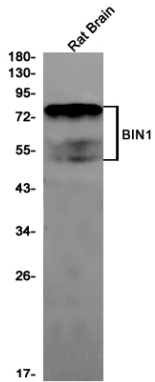
## 画像データ



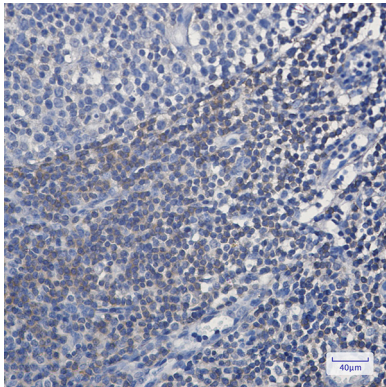
BIN1 抗体と DAPI (青) を使用した U87-MG の BIN1 (緑) の免疫細胞化学分析。



BIN1 抗体を使用したラット脳、マウス筋肉溶解物中の BIN1 のウェスタンブロット分析。



BIN1 抗体を用いたラット脳溶解物中の BIN1 のウェスタンブロット分析



BIN1 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。